

平成 30 年度 農作物（水稲）モニター事業調査結果

本県NOSA Iでは、水稲の生育状況を調査し、気象・病虫害発生状況などの基礎情報を継続的に観測して、県内水稲の作柄や被害発生状況の把握に務めています。

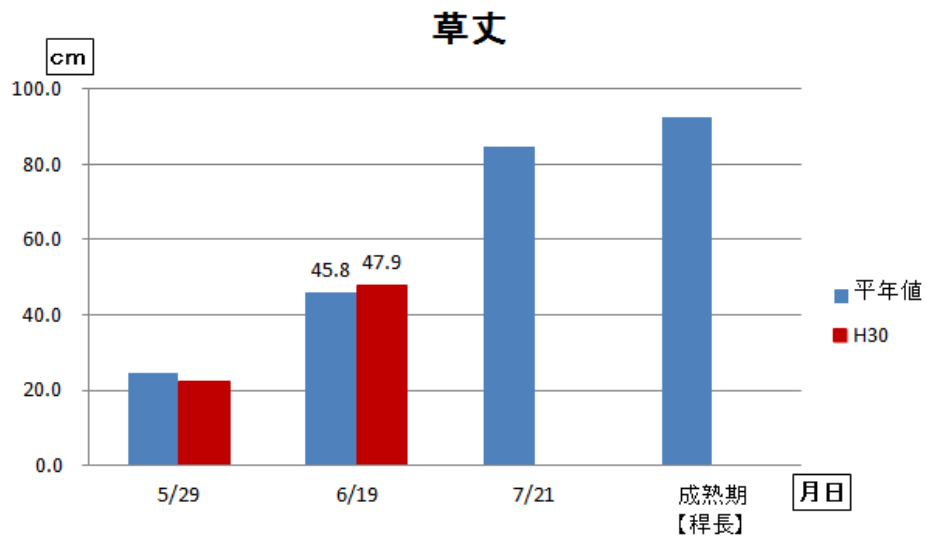
1. 水稲の生育および病虫害発生調査結果（第2回）

1) 水戸市の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
水戸市	コシヒカリ	5月12日	6月18日

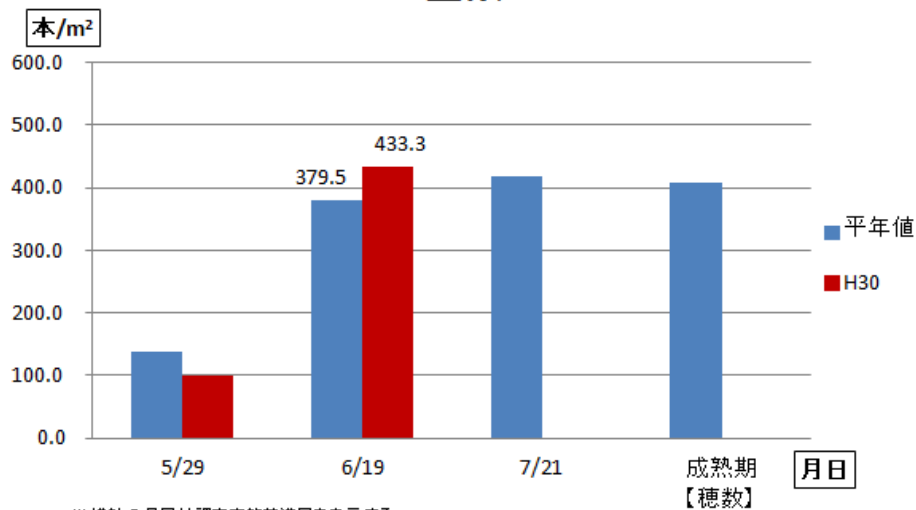


↑ 圃場の様子

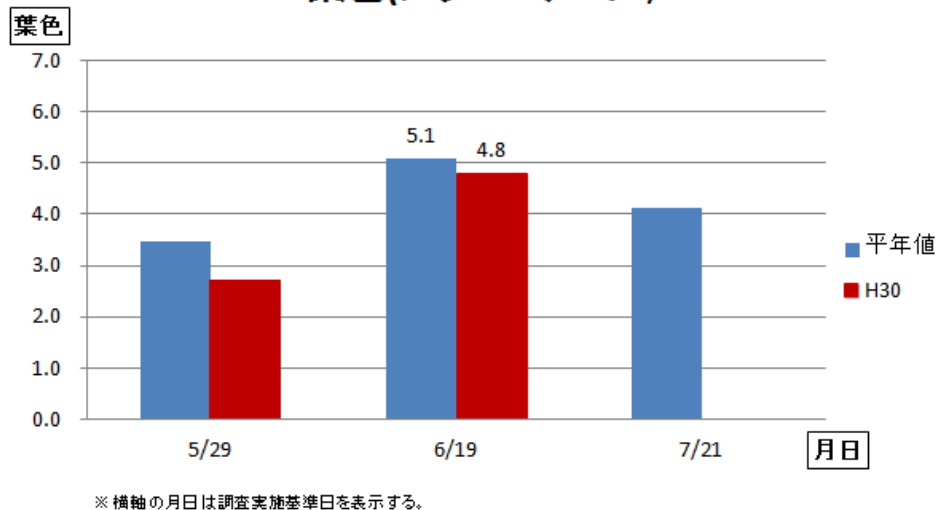


※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

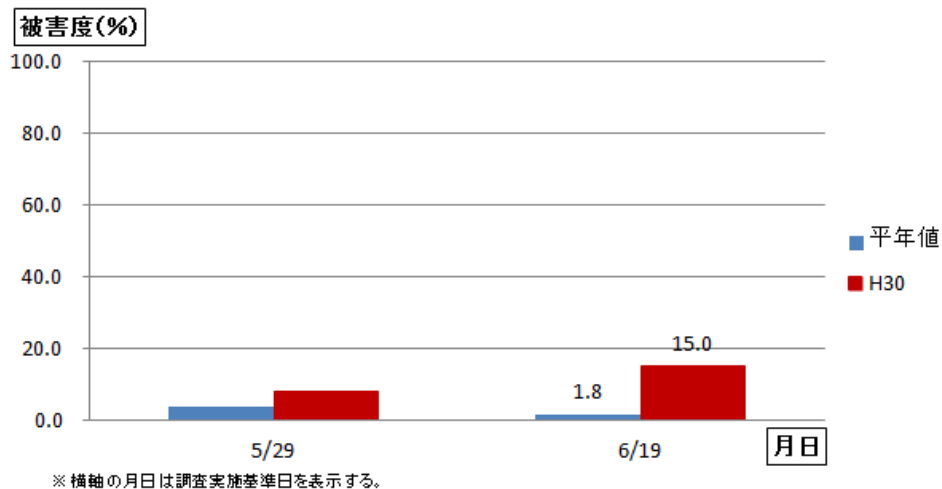
茎数



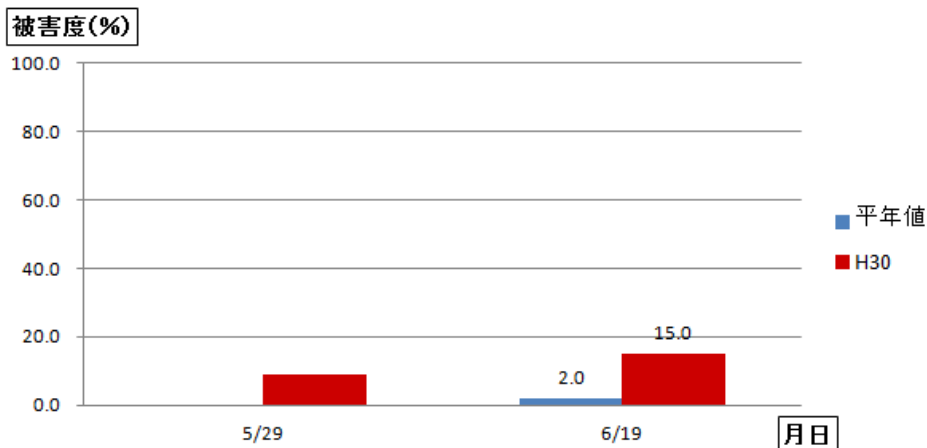
葉色(カラスケール)



イネミズゾウムシ



イネドロオウムシ



※横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成25～29年の5年間の平均値

○生育調査結果について

6月18日に調査した県内「コシヒカリ」の生育状況は、草丈は平年並～やや高く、茎数はばらつきが大きい概ね平年並～やや少なく、葉色は平年並～やや濃いとなっています。

調査圃場では草丈は平年よりもやや高く、茎数は平年よりも多く、葉色は平年並となっています。「コシヒカリ」の中干しの目安：茎数330本/m²が確保されていますので、中干しを行って下さい。確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

水戸のアメダスデータを基にした水稻発育予測モデルにおける出穂期予測では、5/12移植で、8/3に出穂期になる予測となります（本年の気温(6/25まで)を用い、今後の気温を平年並みと仮定して予測）。

○病虫害発生調査結果について

調査圃場ではイネミズゾウムシ、イネドロオウムシの発生が少程度見られていますが、問題ないものと思われます。例年いもち病の発生が見られているようなので、発生に注意して下さい。紋枯病についても例年発生が見られているようなので、よく観察し発生に注意して下さい。紋枯病は、近年県内の発生が増加傾向にあります。

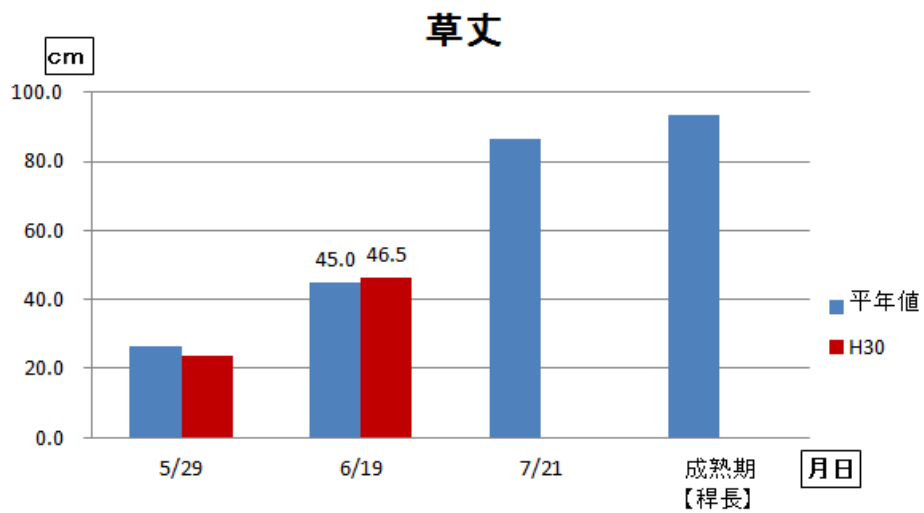
今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する2週間前までに除草を完了させて下さい。

2) 茨城町の調査結果

調査場所	品種	移植日	調査日
茨城町	コシヒカリ	5月12日	6月18日

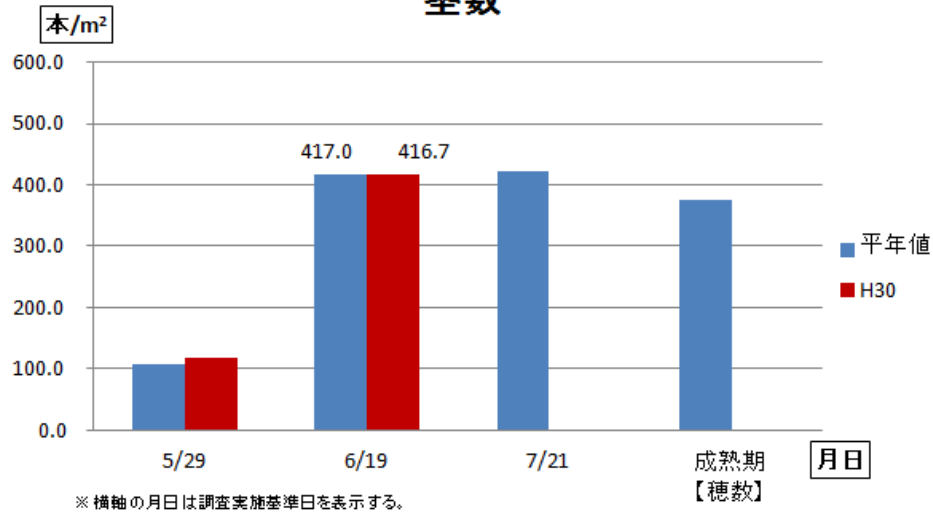


↑ 圃場の様子

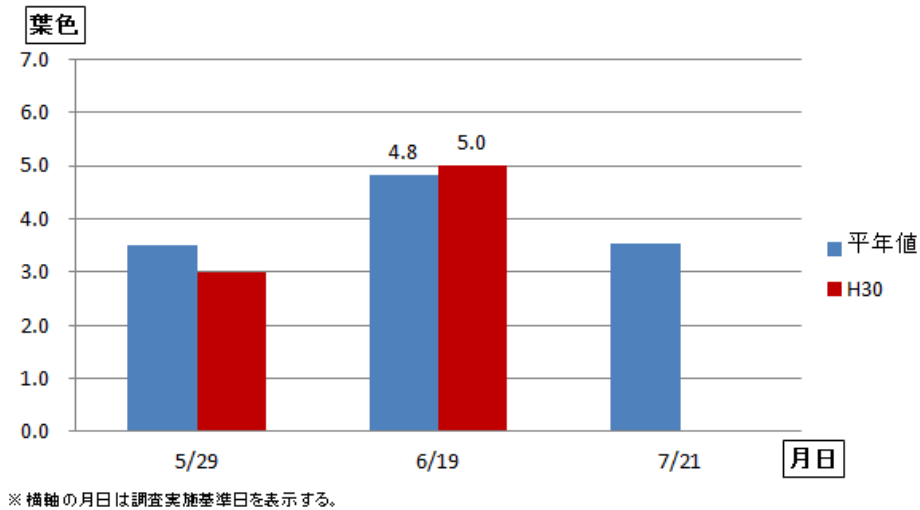


※ 横軸の月日は調査実施基準日を表示する。

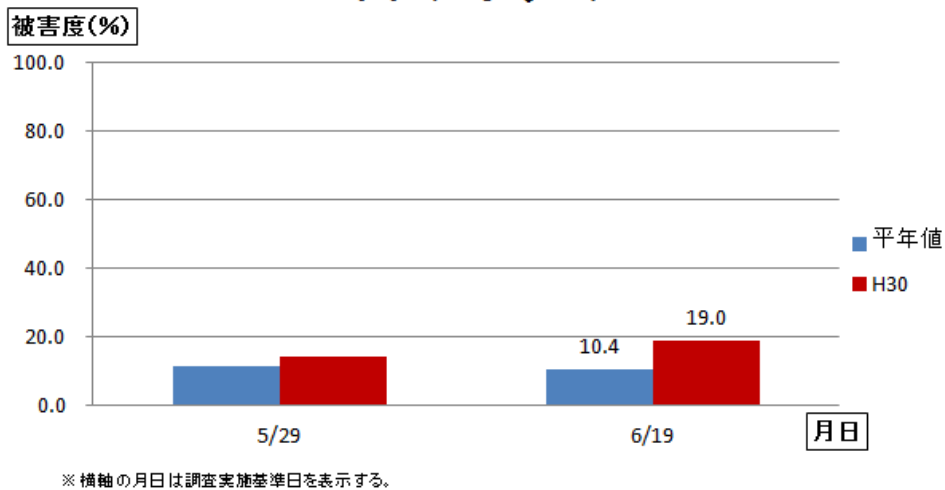
茎数



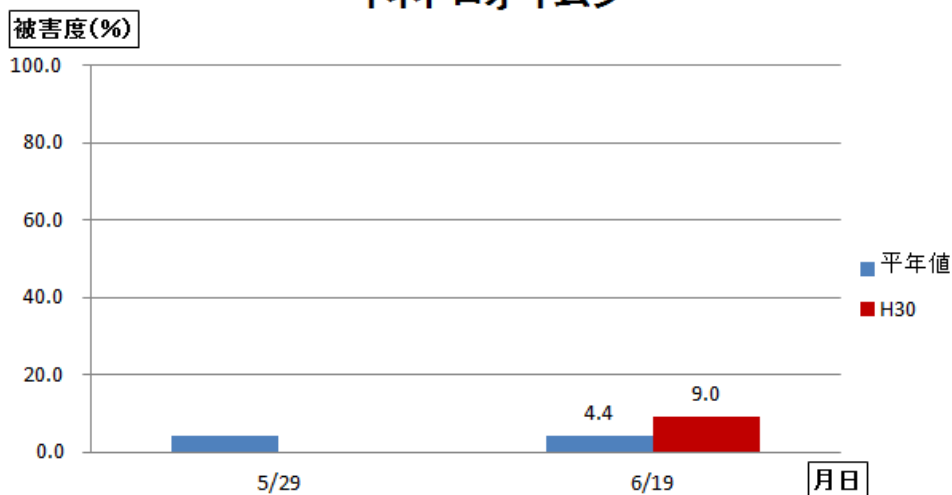
葉色(カラスケール)



イネミズゾウムシ



イネドロオウムシ



- 被害度は該当虫による葉の食害の度合い
- 平年値は平成 24～28 年の 5 年間の平均値

○生育調査結果について

6月18日に調査した県内「コシヒカリ」の生育状況は、草丈は平年並～やや高く、茎数はばらつきが大きい概ね平年並～やや少なく、葉色は平年並～やや濃いとなっています。

調査圃場では草丈、茎数、葉色ともに平年並となっています。「コシヒカリ」の中干しの目安：茎数 330 本/m²が確保されていますので、中干しを行って下さい。確実な中干しを実施するためには、用水を止めるだけでなく、水尻（排水口）を低くしたり、暗渠の水甲を開けたりする等、完全に落水させるような工夫が必要です。

水戸のアメダスデータを基にした水稻発育予測モデルにおける出穂期予測では、5/12 移植で、8/3 に出穂期になる予測となります（本年の気温(6/25 まで)を用い、今後の気温を平年並みと仮定して予測）。

○病害虫発生調査結果について

調査圃場ではイネミズゾウムシ、イネドロオウムシの発生が少程度見られていますが、問題ないものと思われます。例年いもち病の発生が見られているようなので、発生に注意して下さい。

今後、斑点米カメムシ類の耕種的防除として、畦畔のイネ科雑草が穂をつけないよう除草することが有効です。ただし、水田内への追い込みを避けるため、水稻が出穂する 2 週間前までに除草を完了させて下さい。

2. 次回調査予定日

7月20日

茨城県農業共済組合連合会調べ
協力：茨城県農業総合センター